

小学六年

国語

解答と解説

1

問一	ウ	(順不問) (完答)	21
問二	オ		
問三	お		
問四	互		
問五	い		
問六	に		
問七	居		22
問八	安		
問九	心		
問十	を		
問十一	約		
問十二	束		23

問四

で	グ	関	ク
必	ル	わ	ラ
要	ー	り	ス
な	プ	方	の
役	と	の	中
割	い	ス	で
を	う	タ	の
演	少	ン	立
じ	人	ス	ち
ら	数	が	位
れ	の	似	置
る	単	て	や
	位	い	人
	の	て	と
	中	、	の

24
25
26
27

2

問一	エ	37
問二	1	
問三	ウ	38
問四	2	
問五	ア	39
問六	3	
問七	エ	40
問八	エ	41
問九	ウ	42

問八	ア	(完答)	34
問九	イ		
問十	ウ		
問十一	エ		
問十二	オ		
問十三	功		
問十四	B		
問十五	奏		35
問十六	ウ		36

問五	i		
問六	オ	28	
問七	ii		
問八	ア	29	
問九	iii		
問十	イ	30	
問十一	⑤		
問十二	イ	31	
問十三	⑨		
問十四	ウ	32	
問十五	い		
問十六	っ		
問十七	メ		
問十八	ン	33	

問五	境		
問六	界		
問七	線	43	
問八	た		
問九	だ		
問十	休		
問十一	み		
問十二	た	44	

		5		4		3													
⑥	改革	65	①	揮発	60	①	ウ	55	①	イ	50	問九	ウ	48	問八	最初	問七	1	最初
⑦	歴訪	66	②	疑念	61	②	ア	56	②	オ	51	問十	ア	49	自	分	「	仲	良
⑧	再燃	67	③	裁量	62	③	エ	57	③	ア	52	(完答)		持	く	し	く	し	く
⑨	肥	68	④	規律	63	④	オ	58	④	ウ	53			最後	り	あ	わ	な	い
⑩	盛	69	⑤	豊富	64	⑤	イ	59	⑤	エ	54			い	な	い	な	い	な
																	う	2	イ

【解説】

① 辻みゆきの『教室のハルモニア』（さ・え・ら書房）から出題しました。

転校生の九十九友花が挨拶をしている様子を高沢梨菜が見ながら、頭の中でクラスの状況やこれからの展開を思い描いている場面です。梨菜とそれぞれの登場人物の関係を意識しながら読み進めましょう。

問一 B2 具体化 比較

梨菜は九十九さんの挨拶を聞きながら手をたたきつつ、頭をフル回転させて今後の展開について思い描いています。1ページ上段の後半に「梨菜が思っていることを、もうちょつと正確に表現すると」とあり、この後に書かれている「——九十九さんは、うちのグループに入れる？」が、さしあたって梨菜が考えている内容であることがわかります。二行後の「やっていけそうか？　」と言い換えてもいい」と合わせて考えると、ウが一つの答えとわかります。また、この物語は間に梨菜の視点から見たクラスの状況が詳しく説明された後、4ページ上段の部分で再度挨拶の場面に戻ってきています。その部分を読むと、梨菜は九十九さんに対し、自分の率いる一軍に魅力を感じ、入りたいと思っほしいと考えていることがわかります。したがって、オが二つ目の答えとなります。

問二 B1 具体化 関係づけ

——線②に続く部分で、梨菜がスクールカーストについてどう考えているかが語られています。2ページ上段に「梨菜から見た女子のスクールカーストは、こういうイメージだった」と

あることから、ここまでの部分に参考になる表現がありそうだとわかります。

このあたりを注意深く読み直すと、——線③の直後に「集団生活の中で、お互いに居心地よくいられるための住み分けと、いつてもいい、と梨菜は思う」とあり、「お互いに居るの住み分け」の部分がちょうど字数条件と前後のつながりに合います。※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問三 B1 具体化 関係づけ

◎の文の後半に「みたいなもの」とあります。ここから、梨菜がグループを何かにたとえている部分が参考になることがわかります。グループについて梨菜が自分なりの考えを表現しており、かつたとえの表現がある部分を探すと、4ページ上段に「グループは、そこに集まる子たちに安心を約束してくれる砦のようなものだ」という内容が見つかります。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問四 B2 具体化 推論

梨菜が女子のグループについて男子と比べて考えている部分が1ページ下段にあります。「興味の方や、得意不得意だけで集まっているわけではなく」「クラスの中の立ち位置とか、人との関わり方のスタンスとか、そういうものが重要になる」「凸と凹がはまるかどうかを見定め合ったり、あるいは、そこにはまるように、自分を凸にしたり、凹にしたりしながら」あたりを参考にしてまとめましょう。使用するよう指示されています。

る「必要な役割」は、「凸と凹」という表現をわかりやすく言い換えたものとして使うと書きやすいでしょう。

※設問の指示や字数・文字指定に従っていないものは不正解とします。ただし、誤字脱字が一つの場合は減点1点、二つある場合は減点2点、それ以上は不正解とします。また解答の説明に過不足がある場合は減点2点とします。

問五

B1 関係づけ 比較

適当な副詞を空欄に入れる問題です。

i 一つ目の i は梨菜が一軍、二軍、三軍に分けたクラスの子たちたちのグループに名前をつけている様子、二つ目の i は一軍の中で、トップである自分の友だち梓とも言える三人に梨菜がつけた呼び名です。どちらも、本人たちを目の前にしておおびらに呼んでいるわけではなく、梨菜が心の中でそう呼んでいるということですから、オ「ひそかに」が入ります。

ii 真由の容姿がよい、ということの説明している部分です。直前に「ぱつと見て」と書いてあることから、姿を見れば一瞬で目を引くような容姿であるという表現になるようにア「すぐに」が入ります。

iii 直前の「あまりイケてない美月」、直後の「がんばって一軍の座をキープしようとしている」という表現から、少なくとも梨菜の目から見て、美月はちょっと気を抜くとたちまち「所屬」の座を追われてしまいかねない存在であることがわかります。そのような存在の美月がなんとか一軍に居続けよ

うとがんばっている、という表現ですから、イ「健気に」が入ります。

問六

A2 知識 比較

語句の意味を答える問題です。辞書の意味をもとにして、文章中の意味をとらえましょう。本来の辞書的な意味から外れている選択肢が答えになることはありません。両方を満たしている選択肢を探すようにしましょう。

⑤ 「さしずめ」は「さしあたって、今のところ」「結局、つまりは」という意味で使われる言葉です。今回の文章では、「とりあえず今のところは、さしあたって」あたりの意味で使われています。

⑨ 「水を向ける」は「相手の関心をひくためにさりげなく話をその方向に誘導したり、きつかけを作ったりすること」です。3ページ下段に「こつちから誘っているのに」とあることもヒントになります。

問七

B1 置換

——線⑥、——線⑦の三人組、四人のグループは学校にいるほとんどの時間をともに過ごしている集団です。このように常に特定のメンバーが集まる様子は、——線③の直前で「いつもいっしょにいるメンバー——いっつメン」と表現されています。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問八

B2 具体化 比較

川上真由と一ノ瀬芽生のふたりに対して、梨菜は「このふたり、一軍に入ればいいのに」と感じています。この後、まずは真由について魅力が語られ、その後芽生についても梨菜の感じていることが語られています。3ページ目とていねいに照らし合わせて選択肢を検討しましょう。ア「真由も芽生も今は大してよいところのない子だが」、イ「メンバーの数が増えることも大切」、ウ「仲野優也もグループに入れてほしいと思ってくれるかもしれない」がそれぞれ誤っています。

問九

A2 知識 関係づけ

声をかけ続けた結果、真由と芽生は完全に自分たちのグループに入ったわけではないものの、いっしょに行動することもある状態になり、とりあえずうまくいった、という意味の表現が入ることがわかります。Aに「功」、Bに「奏」が入って「功を奏した」という言葉ができます。「奏する」はもともと、主君に対して申し上げるという意味の言葉で、功績について報告をすることからできた言葉です。「奏功する」ともいいます。

問十

B1 理由 比較

梨菜がすぐには動かなかった理由は、明確には語られていません。したがって、梨菜の言動や心の中が表れている部分から考えていくことになります。

——線⑪の直前にある「そんなふうに思っている」から、梨菜が九十九さんに一軍に入りたいと思っただけと考えると、線⑪以降を読み進めると、4ページ下段の最後に「この子はどうして、こんなにま

わりを気にせずにすぐしていられるんだろう」と、梨菜が九十九さんについて考えている部分があります。これを踏まえてこれまでの文章を確認すると、一軍のトップに君臨している梨菜でさえ、周囲にどのように見られているかをかなり気にしていることがわかります。以上のことから、ウが正解となります。ア「自分が関与すべきではないと思っっている」、イ「一軍の他のメンバーを九十九さんがどう評価するか」、エ「他のグループの出入を待ってから動こうと考えている」がそれぞれ誤っています。

【2】鴻巣麻里香『自他の境界線を育てる 「私」を守るバウンダリー』（筑摩書房）から出題しました。

集団の中で生活していくうえで、周囲と自分の間にどのような線引きをし、付き合っていくかということに関して筆者が見解を述べている文章です。

問一 B1 具体化 比較

「ぐっと距離を詰めてくる人」については、——線①の二段落後で「プライベートな秘密に踏み込んでくる人たち」と説明されています。したがって、エが正解となります。ア「自分のプライベートな秘密を教えてくる」、イ「どんな無難な回答にも興味を示して」、ウ「あまり関心がないような話題にまで」がそれぞれ誤っています。

問二 B1 関係づけ 比較

空欄にあてはまる接続詞を考える問題です。前後の内容どうしのつながりに着目し、接続詞そのものの働きと合わせてふさわしいものを選びましょう。

《1》の直前で、筆者は「踏み込まれたくない話題について、無難な回答を事前に用意しておくことも効果的」と述べています。これに対して直後では、踏み込まれたくない話題について話をうまくかわすとはいっても「嘘をつく」ことは望ましくありません」と一定の条件、制限をつけています。このことから、ウ「ただ」が入ります。

《2》の直前には、「人の内面は、誰から見えませんが」とあり、直後には「内心で何を考えていても、それを言葉や行

動に乗せなければ相手には伝わらない」と書かれています。同じ内容を別の言い方でまとめなおしていることから、ア「つまり」が入ります。

《3》の直前には、「私は」という主語をつけて意見を表明することで、相手の意見を否定するニュアンスがうすれ、自分の意見を伝えるに留まる、という内容が書かれています。これに対して直後では、自分が発信するのではなく相手から違いを指摘された時の話として「あなたはそう思ったのね」と境界線を引き直せば良い、という対処法が紹介されています。「も」という並列を表す表現にも注目すると、エ「また」が入ることがわかります。

問三 B1 関係づけ 比較

② 相手に予定を聞かれた、という場面で「疲れちゃってひとりで休みたいから」「推しを愛する時間にしたいから」と答えるのは、いくらか相手を突き放すような、冷たい対応にも見えます。このことから「そっけない」が入ります。理不尽な対応をしているわけではないので「大人げない」は当てはまりません。

⑥ 「ちよつと用があるからしばらく離れる」は嘘ではなく、かつ相手に配慮しながら「ひとりになりたい」という要望を伝える表現です。相手にあまり引つかかりを感じさせない、という意味で「当たり障りのない」が入ります。

問四 B1 理由 比較

——線③直前の「そういったとき」とは、集団の雰囲気に対

してはつきり嫌だ^{いや}と意思表示することで空気を変えるのは怖い、と感じるときのことです。はつきり「NO」と言葉にしてみようのが怖いのであれば、「無言でいる」「真顔でいる」ことによって、間接的に「NO」を表明すればよい、ということですが。したがって、ウが正解となります。ア「相手の方から距離をとるよう誘導できる」、イ「不機嫌^{ふきげん}さを見せつける」、エ「わかりやすい形」がそれぞれ誤っています。

問五

B1 置換

——線④直前の「私は私」や直後の「引き直す」という言葉から、「バウンダリー」とは、周囲の他人と自分をはつきり区別するためのものであることがわかります。このことを意識して本文を読み進めると、9ページ上段に「自分が感じていることと、実際の言葉や態度との間に境界線を引く」「自分を守る安全な境界線を引き直す」という表現が見つかります。したがって、「境界線」が「バウンダリー」と同じものを指していることがわかります。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問六

B1 置換

——線⑤より前の部分から、「自分の『ひとりになりたい』という発言で」「他の誰かが安心する」という内容に当てはまる文を探します。要素としては二つありますが、まずは片方だけでも意識して探していくとよいでしょう。その観点でさかのぼりながら探していくと、8ページ上段に「ただ休みたい、趣味^{ぼんち}に没頭^{ぼんち}したい、そうはつきり伝えることで、その姿を見て『あ

んなふうに言っていんだ』と安心できる人がいるという二次的な効果もあるかもしれません」という文が見つかります。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問七

1 B1 具体化 関係づけ

「呪い^{のろ}」とは、神仏や霊^{たま}的なものの力を借りて災い・不幸をもたらそうとする行動や、その災い・不幸そのものを指す言葉です。そのような辞書的な意味をもとに、特定のものの考え方をすることによって行動がむやみにしばられてしまうこと、またそのことでよくない影響^{えいきょう}がもたらされることを指す場合にも使われます。この文章では、「みんな仲良く」という言葉が状況に関係なく他人と仲良く接しなければならぬことを強要するように働いてしまうことを「呪い」と表現しています。つまり、「みんな仲良く」という言葉のせいで知らず知らずのうちに「仲良くしなければならぬ」と思い込んでしまうことが「呪い」の正体であるというわけです。このことを意識し、字数条件も合わせて探していくと、7ページ下段に「仲良くしなければ」と頑張^{がんば}ってしまう」という表現が見つかります。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

2 B1 理由 比較

——線⑦直後に、本来は違いがある、というだけの話なのに、違っている状態自体を「間違っている」と認識してしまう理由について説明が書かれています。筆者はこの部分で、学校でそ

のように教わることが一番の理由であると指摘しています。違っている状態を間違いだと認識し、みんなが同じ状態であることを目指す方が、学校にとって都合が良いから、というのがその理由です。したがって、イが正解となります。ア「他人と自分の違う点を強く意識するように」、ウ「触れる余裕がない」、エ「教師と同じ意見を持つことが求められる」がそれぞれ誤っています。

問八

B1 具体化 関係づけ

筆者が「お皿のイメージ」を用いた意図は、本文の最後に「お皿のイメージを用いて、自分の気持ちや意見と相手のものが混ざりあわないように」と説明されています。字数の条件と前後のつながりを考え、「自分の気持ちよりあわない」の部分を抜き出します。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問九

B1 関係づけ 比較

抜けている文をもとの場所にもどす問題です。指示語や接続語、キーワードに注目して、抜けている文と内容的に近い内容が書かれている部分を探しましょう。また、実際に文をもどして読み直し、内容的にふさわしいかどうかを確認しておきましょう。

「自分の願いのお皿が空っぽ」とはどういう状況かを考え、「ア」「エ」の直前をそれぞれ確認していきます。「ウ」直前の「自分の願いがわからない」がその状態と合っています。

問十

B2 抽象化 比較

本文の内容と合っている選択肢を答える問題です。選択肢の内容と本文のどの部分が対応しているのかを考え、必ず本文と照らし合わせて正誤を検討しましょう。

アの内容は、7ページの下段に書かれている内容と対応しています。

イ「多少嘘を混ぜてでも」、ウ「本当の友人をできるだけ多く作っておく」、エ「できるだけ早く自分がどう感じているか言語化するべき」がそれぞれ誤っています。

3

A1 知識 比較

故事成語の意味として正しいものを選ぶ問題です。

音や言葉の響きで覚えるだけでなく、意味やどのような場面で使う言葉なのかということもあわせて覚えてみましょう。

4

A1 知識 比較

ものの数え方（助数詞）を答える問題です。

それぞれ、その形状や使い道に合わせた助数詞が使われています。「個」以外の特徴的な数え方について、興味を持って覚えておくといいでしょう。